

## ジョグジャカルタ・中部ジャワ震災による

### 文化財の破損状況調査報告

ガジャマダ大学文化研究学部考古学学科

2006 年

#### 背景

2006 年 5 月 27 日の地震はジョグジャカルタ及び中部ジャワの一部に壊滅的な被害をもたらし、犠牲者の多さにインドネシア国内外の人々は息を呑んだ。しかし人的物的な被害に加えて、文化的な損失も見逃すことはできない。この地方の人々の心の拠り所であり誇りであるところの文化財も共に崩れ落ちた。世界遺産として登録されている遺跡すら致命的な被害を受けたのである。このような遺跡は既に新築することも別のもので換えることもできないことを思うと、その損失にははかり知れないものがある。

今までのところ各地における地震後対策は人的被害の救済を第一にしてきた。しかしながら、このまま放置しておいて破損が更に進み、やがては消滅又は全壊などの事態を招かないよう、被害を受けた文化財にも適切な処置が必要である。ここに、ガジャマダ大学文化研究学部考古学学科は大学の文化研究センターと協力して、地震の被害を受けた文化財の救済を、学内のみならず広く一般の人々にも呼びかけたいと思う。ガジャマダ大学、特に文化研究学部考古学学科は現存する文化遺産の存続に向けて自ら努力することは勿論で

あるが、一方で地震後対策に参画するように国内外の一般の人々の関心を喚起するのもその義務の一つであると考えている。

この文化財破損状況調査は、ガジヤマダ大学文化研究学部考古学学科教員 10 名と同大学工学部建築学科教員 2 名に考古学学科現役学生 16 名と卒業生 1 名を加えたチームが行った。まず調査すべき 8 つの地域を特定し、それに合わせてチームを 8 つのグループに分けた。一つのグループは必ず教員と学生の混成にし、構成員の一人を調整員兼報告書作成係にした。

## **調査内容**

修復作業及び防災対策の策定に役立てるべく、地震に遭った文化財それぞれの被害の程度を考古学的に評価・判断すること。

## **最終目標**

地震に遭った文化財の被害状況を記録し、修復作業及び防災対策の提案を行う。そしてそれを刊行物として及びインターネット上で公表する。

## **実際の活動内容**

### **1. データ収集**

まず調査グループはそれぞれの担当地域に行って、そこに存在する文化財の中で、地震の被害を受けたものの詳しい所在地、被害の種類、被害の程度を記録した。所在地の記録には、後に地図に正確に書き込むことを念頭に置いて、GPS ( Global Positioning System ) を用いた。

記録された建造物は 51 点で、宗教施設、防犯・治安施設、交通関係施設、住居、娯楽施設から成る。詳しくは以下の表 1、2 をご覧いただきたい。

表 1 文化財破損状況

グループ	被災建造物	これまでの処置及び今後の対策
I	1. ブランバナ駅舎：重度；床と信号室とトイレを残すのみで、それ以外は全壊。 2. スロウオット駅舎：中程度 3. チェペル駅舎：中程度 4. チャンデイ・ムラク：石組みに軽度の破損。 5. チョクロ・トゥルン池：被害なし	1. ブランバナ駅舎はインドネシア鉄道公社と中部ジャワ遺跡管理事務所で再建予定。 2. スロウオットとチェペルの駅舎は鉄道公社による修復を期待。 3. チャンデイ・ムラクの修復は中部ジャワ遺跡管理事務所に

		よる修復を期待。
II	<p>6. チャンディ・マントウツプ：被害なし</p> <p>7. チャンディ・ガンピンガン：軽度；石組みの数箇所に隙間。</p> <p>8. パヤックの泉：被害なし</p> <p>9. クカヨン博物館：軽度；壁に亀裂。</p>	<p>1. チャンディ・ガンピンガンの修復はジョグジャカルタ特別州遺跡管理事務所に期待。</p> <p>2. クカヨン博物館は所有者によって修復済み。</p>
III	<p>10. パルバパン駅舎：外部には被害なし。内部に中程度の破損。</p> <p>11. ガンジュラン教会：重度</p> <p>12. バントウル駅舎：被害なし。</p> <p>13. ジョヨディニングラット邸 (ジャラーニトラ事務所)：テラスに中程度の破損。塀は崩壊。</p> <p>14. アンバル・タワン荘：軽度</p>	<p>1. ジョヨディニングラット邸 (ジャラーニトラ事務所)は所有者が修復する予定。</p> <p>2. プロト・クスモ邸は手付かず。</p>

	<p>15. アンバル・ピナンゲン荘：建物と塀に中程度の破損。</p> <p>16. プロト・クスモ邸：重度</p> <p>17. セロ・モスク：被害なし</p>	
<p>IV</p>	<p>18. デイルガンタラ博物館：重度；内壁崩壊。収蔵品（飛行機）に重度の破損。</p> <p>19. ジョグジャ奪回記念館：被害なし</p> <p>20. ダルマウィラタマ博物館：軽度；収蔵品に軽度の破損。</p> <p>21. パクアラマン宮：軽度</p> <p>22. タマン・シスワ：数戸の建物に重度の破損。中央ホール（プンドポ）の柱に礎石から外れたものあり。</p> <p>23. サスミトロコ博物館：軽度；収蔵する像の多数が破損。</p>	<p>1. デイルガンタラ博物館は空軍が修復予定。</p> <p>2. パクアラマン宮はガジャマダ大学のチームが修復予定。</p>

<p>V</p>	<p>24. チャンディ・グバン：被害なし</p> <p>25. チャンディ・サリ：軽度；石に亀裂が生じたものあり。</p> <p>26. チャンディ・サンピサリ：被害なし</p> <p>27. チャンディ・カラサン：中程度；屋根とレリーフの数箇所に石がはずれて落ちたり、位置がずれたりしたものあり。建物の西部が東に傾斜し、石がはずれたもの多数。</p> <p>28. アファンディ美術館：中央館に中程度の破損；収蔵品に被害なし。</p>	<p>アファンディ美術館は美術館当局によって既に修復済み。</p>
<p>VI</p>	<p>29. プロソ・クニン・モスク：軽度。</p> <p>30. ウォノクロモ・モスク：軽度。</p> <p>31. パトゥカン駅舎：既に古駅舎は存在せず、被害もなし。</p> <p>32. トゥグ駅舎：中程度。壁にひび割れ。</p>	<p>1. プロソ・クニン・モスクとウォノクロモ・モスクはジョグジャカルタ特別州遺跡管理事務所による修復を期待。</p> <p>2. トゥグ駅舎は鉄道公社が修復する予定。</p>

	<p>33. スラロン洞窟：軽度；洞窟自体ではなく、管理舎などに軽度の破損。</p> <p>34. デイポネゴロ博物館（トゥガル・ルジヨ記念館）：中程度。</p>	<p>3. スラロン洞窟とデイポネゴロ博物館（トゥガル・ルジヨ記念館）はバントウル自治体による修復を期待。</p>
<p>VII</p>	<p>35. フレーデブルグ要塞博物館：軽度；壁に亀裂。</p> <p>36. トウンビ博物館：重度が数箇に；収蔵品も一部破損。</p> <p>37. 独立闘争博物館：中程度。</p> <p>38. ソノブドヨ博物館 1号館：軽度。</p> <p>39. ソノブドヨ博物館 2号館：軽度；収蔵品には被害なし。</p> <p>40. ゴンドマナン中国寺院：軽度；壁の飾りに少々破損あり。</p> <p>41. クランガン中国寺院：重度。</p>	<p>1. 博物館の修復は自治体と博物館当局による修復を期待。</p> <p>2. ゴンドマナンとカラングンの中国寺院の修復は手付かず。</p>

VIII	<p>42. ワルンボト荘：中程度；壁に破損があり、構造上危険。</p> <p>43. シルマン洞窟：軽度。</p> <p>44. チュンドノサリ墓地：構造上重度の破損。</p> <p>45. プレレット・古カウマン・モスク：中程度。</p> <p>46. イモギリ墓地管理所（ジョグジャカルタ王宮担当、プロロヨ）：重度；プンドポ全壊。</p> <p>47. イモギリ墓地管理所（スラカルタ王宮担当）：重度；プンドポ全壊。</p> <p>48. ギリルジョ伝統民家：重度。</p> <p>49. ギリロヨ墓地：重度；地盤が弱い。</p> <p>50. ギリロヨ墓地のモスク：中程度。</p> <p>51. イモギリ・カラン人住居（現 BRI 銀行）：重度。</p>	<p>1. ワルンボト荘、シルマン洞窟、古カウマン・モスク、両イモギリ墓地管理所、ギリロヨ墓地、及びそのモスクはジョグジャカルタ特別州遺跡管理事務所と自治体による修復を期待。</p> <p>2. チュンドノサリ墓地はジョグジャカルタ特別州遺跡管理事務所と遺族に修復を期待。</p> <p>3. ギリルジョ伝統民家は地元住民が修復を予定。</p> <p>4. イモギリ・カラン人住居（現 BRI 銀行）は手付かず。</p>
------	--	--

表2 文化財種類別に見た被害程度のまとめ

種類	被害なし		軽度		中程度		重度	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
駅舎	2	3,92	0	0	4	7,84	1	1,96
要塞	0	0	1	1,96	0	0	0	0
洞窟	0	0	1	1,96	0	0	0	0
博物館	1	1,96	5	9,80	3	5,88	2	3,92
邸宅	0	0	1	1,96	1	1,96	6	11,76
別荘	0	0	2	3,92	2	3,92	0	0
池	1	1,96	0	0	0	0	0	0
泉	1	1,96	0	0	0	0	0	0
チャンディ	3	5,88	3	5,88	1	1,96	0	0
教会	0	0	0	0	0	0	1	1,96
モスク	1	1,96	2	3,92	2	3,92	0	0
墓地	0	0	0	0	0	0	2	3,92
中国寺院	0	0	1	1,96	0	0	1	1,96

建造物の破損の程度は次のような尺度で4段階を設定した。

1. 被害なし
2. 軽度：破損があるにしても建物の構造には影響が無く、従って崩れ落ちる心配の無いものの。
3. 中程度：建物の構造に影響のある破損だが、建物が崩れ落ちてはいないもの。
4. 重度：建物が崩れ落ちている場合。または崩れ落ちてはいなくとも、安全面から見て危険な場合。

美術館や博物館の収蔵品の破損の程度はさまざまであったが、これも軽度、中程度、重度の3つに分類した。

1. 軽度：一部解体しているが、容易に復元できる場合。
2. 中程度：一部もしくは全体が解体しているが、復元できる場合。
3. 重度：一部が破損していて、既に復元できない場合。又は、解体はしていないが、復元できない場合。

## 2 . 地図の作成

GPS を使って把握した被災文化財の位置をまず一つの地図に記入し、別に作成した活断層地図に重ねた。これは今後防災対策を立てる時の参考資料になるであろう。

## 3 . 破損程度の評価

破損が建物の形状の破損にとどまるのか、それとも構造の破損にまで達しているのかを見ながら、それぞれの建物に対して修復と耐震処置の両面から破損の程度を評価した。

1. 軽度：所有者が独力で修復・復元できる。

2. 中程度：

a. 当該文化財がジョグジャカルタ特別州町並み保存地区内の物が国の登録文化財かにより、それに応じた修復措置を取る。

b. 修復・復元は以下の点に留意して行う。

- 素材、形状、技法、位置のオリジナリティを守る。
- 文化的脈絡全体の中での位置付けが失われないようにする。
- 今後も永く存続可能な処置をとる。

c. 技術的に修復・復元不可能、もしくは所有者が修復・復元を望んでいない場合は文章及び絵や写真によって被災前の状態を残す。

d. 修復・復元発起人：所有者、所有団体、学識経験者、住民。

e. 修復・復元責任者：所有団体、学識経験者。

3. 重度：

a. 当該文化財がジョグジャカルタ特別州町並み保存地区内の物が国の登録文化財かにより、それに応じた修復措置を取る。

b. 修復は以下の点に留意して行う。

- 素材、形状、技法、位置のオリジナリティを守る。
  - 文化的脈絡全体の中での位置付けが失われないようにする。
  - 今後も永く存続可能な処置をとる。
- c. 技術的に修復・復元不可能、もしくは所有者が修復・復元を望んでいない場合は文章及び絵や写真によって被災前の状態を残す。
- d. 修復・復元発起人：所有者、所有団体、学識経験者、住民。
- e. 修復・復元責任者：所有団体、学識経験者。

#### 4 . 調査結果の公表

ジョグジャカルタ・中部ジャワ震災による文化財の破損状況調査の結果は既にガジャマダ大学文化研究学部考古学学科のホームページ ( <http://arkeologi.ugm.ac.id> ) に発表されている。このホームページを読んだ広く一般の人々には、今後の修復や防災計画の策定及び実行に役に立つ意見や情報を提供していただきたいと思う。また、このホームページはインドネシア語版だけでなく、英語版、フランス語版、日本語版、韓国語版、アラビア語版も作成する予定である。それによって外国の人々の関心も呼び起こしたいと思う。

#### 今後の計画

ホームページに公表した調査結果は刻々更新する。今回のこの調査はいわゆる応急措置

であり、次の段階は文化研究学部の他の学科と協力して進めていきたい。天災は文化財を襲っただけでなく、人々の生活全般にも何らかの影響を及ぼしているからである。